

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100485		
法人名	株式会社さくらケア		
事業所名	グループホーム和音		
所在地	宮崎市江平中町7番地19		
自己評価作成日	平成25年7月17日	評価結果市町村受理日	平成25年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosoCd=4590100485-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosoCd=4590100485-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年8月6日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設を開所して3年目となります。介護スタッフは、家庭的な環境の中で、日常生活のお手伝いをさせて頂いています。季節ごとにイベントを行い、昔を懐かしんでもらったり、生きがいを感じていただけるようなアプローチをしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げられた、「利用者が安心して、寄り添って自己決定を促す、なじみの人とのつながりを継続して、地域との関係作りを積極的に」を職員全員が意識して利用者の生活を支援している。職員は、明るく伸び伸びと働き、いつも利用者本位の介護について職員間で振り返り、次のケアに生かしており、利用者も表情が穏やかで、自分の思いを大切に生活している。地域との関係作りは、回覧板でホームの様子を知らせたり、自治会行事の準備を手伝ったり、自治会の役を引き受けたり、地域の会社の催しに利用者と一緒に出かけ顔見知りになるなど、積極的に関係を築いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を作成し、スタッフルーム、2階ホールに掲示している。	職員一人ひとりが理念を理解し、特に利用者の自己決定を大切に、寄り添うケアに努めている。職員全員で日々のケアを振り返り、理念がケアに反映されているかを常に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方と交流し、顔見知りの関係を築いている。	自治会に加入し、回覧板の受け渡し、行事の準備等に自治会の一員として参加し、交流を深めている。近くの神社のお祭りや近隣の会社の催しに利用者と一緒に出かけ、顔見知りの関係を積極的に築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方や地域の方が介護やケアに関して気軽に相談できるような拠点となるよう、努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事や取組み等の状況報告を行っている。出席頂いた方には、何か一つでも意見を頂けるよう配慮し、サービスの向上に活かしている。	小規模多機能ホームと合同で実施し、ホームの取り組み状況を報告している。出席者が地域包括支援センターと利用者および家族であり、地域からの出席がない。	運営推進会議は、地域の理解や支援を得るための貴重な機会になる。地域からのメンバーを委員に入れ、双方向的な会議を行い、有意義な会議にする取組を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や県が行う研修等には積極的に参加し、できるだけ最新の情報を共有するようにしている。	市主催の研修等には、積極的に参加している。機会がある度に市へ出向き、ホームの状況を報告するなど、積極的に連携を深めるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加やミーティングを通して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	外部研修の報告をミーティングで行い、職員全員で共通認識が持てるようにしている。ミーティングや日々の申し送り時にケアを振り返り、利用者が抑圧感を感じない暮らしができるよう気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待防止研修会に参加し、虐待がないよう注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度への理解を深めるよう、研修があれば参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、丁寧な説明を心がけている。不安や疑問点がないかを確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、意見交換の時間を必ずとるようにしている。また、日頃家族の方等が来訪された際は、積極的に声かけし意見や要望を聞くようにしている。	家族の来訪時には、必ず声かけして利用者の暮らしぶりを話し、何でも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。要望や意見は必ずミーティングで取り上げ、職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、定例ミーティングを行い、利用者様の対応や行事、その他気づいたことを話す機会を設けている。	毎月のミーティングに施設長も出席して、職員に問いかけ、意見や話を聞いている。施設長と管理者には、日ごろから意見や要望が言い合える環境が出来ており、それを代表者へ提示する体制も出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務態度や実績に基づき、平等に判断している。研修等への参加も呼びかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部研修への積極的な参加を呼びかけている。資格取得の応援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ加入し、研修や交流の機会を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に声かけをする。言葉以外にも利用者様の表情やしぐさも見落とさないように注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の不安や要望もしっかりとお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、対応の優先順位を考え、必要に応じて他のサービス機関や地域包括支援センターに協力をお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションの準備や片づけを一緒にするようにしている。洗濯や掃除などもお手伝いしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、できるだけ施設に来ていただくよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来訪して頂けるよう、施設は常に開放されている。ご家族にも協力していただき、関係維持の支援をしている。	親戚や知人が時折来訪される利用者もおり、その関係が継続出来るよう、声かけて暮らしぶりを伝えたり、再度の訪問をお願いしている。お墓参りや故郷への訪問など、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、季節のイベント等を通して、お互いに励ましあい、協力して生活できるような環境を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の環境変化が少なくなるよう、必要な範囲で、施設での様子や好みなどの情報を伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や意向をミーティング等で話し合うようにしている。毎日のちょっとした会話や利用者様の表情やしぐさから読み取るようにも心がけている。	寄り添うケアに努め、日々の暮らしの中で、本人の思いを把握するよう努めている。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の研修に、順次職員を参加させている。	利用者の思い、暮らし方の希望を職員間で共有するために、生活歴の把握、職員一人ひとりが利用者の思いに関心をはらうことが大切です。センター方式も活用して、更なる取組を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、キーパーソン、主治医から利用者様の生活歴や趣向などの情報を収集して、職員が共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で話し合い、利用者様本人のできることを尊重し、見守るケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。更に充実した内容となるよう、取り組んでいる。	毎月モニタリングを行い、3か月ごとに本人や家族と話し合いを持ち、計画の見直しを行っている。介護計画は、職員全員で話し合い、本人や家族の思いを反映した計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・申し送りを活用し、情報を共有している。朝礼やミーティングも行い、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の要望を受け止め、できる限り柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントでボランティアの方に来て頂き、民謡や尺八を披露していただいた。隣接の神社へお参りに行ったり、掃除の手伝いをしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族が希望されるなじみのかかりつけ医への継続受診を支援することで、安心頂いている。	本人や家族が希望する掛かりつけ医となっている。通院に家族が付き添う場合は、ホームでの状況を伝えている。近所の医院から定期的な往診、また、随時の往診があり、適切な医療を受けられる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活状況のチェックを行い、必要に応じて家族や医療機関へ連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、速やかに情報提供を行い、利用者様の負担軽減に努めている。退院の際は、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する方針を定め、利用開始時にまず説明し、その後必要に応じてご家族、主治医と話し合いを持つようになっている。	利用開始時に方針を説明し、本人や家族は方針を共有している。看取りの実績もあり、近隣の医療機関の協力も得られる体制が出来ており、職員もその方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを備えている。緊急時の連絡網も併せて設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練や、避難訓練を行っている。近隣の会社にも協力していただいている。	年2回の避難訓練を実施している。近所の防災機器の会社の協力で、消火器の取り扱いの指導を受けている。近隣の会社等とは、口頭での協力は得られているが、訓練への参加までには至っていない。	地域の消防団や自治会、会社、住民等との協力体制について、更に積極的に連携を図り、さまざまな想定で具体的な避難方法を決めるなど、年間を通じて訓練を繰り返す取組を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼儀正しい声かけを実践し、利用者様を個人として尊重し、対応に注意している。	利用者に敬意をはらった、自己決定しやすい言葉かけを実践している。排せつ時や利用者が失敗した時もさりげなく、目立たない介護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身の思いを重視するようにしている。あくまで主は利用者様であることを職員が認識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間などを施設では決めず、利用者様のペースを重視している。食事の時間も利用者様のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師さんに来て頂いている。行事や外出時は、一緒に洋服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールの真ん中にキッチンがあり、お手伝いのできる利用者様と準備や片づけを一緒に行っている。	調理場はホールに直面しており、職員は利用者と雑談しながら調理している。職員も同じ食卓を囲み、同じ物を食べ楽しい食事となるようにしている。おやつ作り等では、食卓にプレートを置き、利用者が腕を振るう場面もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取状況を記録し、体調管理に努めている。水分摂取量の少ない方には繰り返し声かけ誘導をし、多飲の方には、一度に出す量を減らしたりする工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの声かけ、誘導、介助をしている。画一的ではなく、利用者様の有する力に合わせたお手伝いを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握するよう努めている。日中はできる限り声かけ、誘導により排泄支援をしている。	排せつチェック表で一人ひとりのパターンを把握して、さりげない誘導で支援している。入居時や病院からの退院時に、オムツを利用していた方も、トイレでの排せつが出来るようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や睡眠、適度な運動で自然排便を促している。主治医と相談しながら、できるだけ薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、利用者様の希望があれば対応している。なかなか入浴されない利用者様には、根気強く声かけをして、入浴支援を行っている。	本人の希望を聞き、入浴を支援しており、夕方を希望する利用者にも対応している。利用者は、職員と1対1でゆっくりくつろいで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールや居室の温度管理に気をつけ、ゆっくりくつろげる環境を整えている。夜間も一人ひとりのペースで入眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用される薬を個別に管理し、飲み忘れや誤薬を防止している。また、日常生活の変化をできるだけ細かく医師や看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやイベント、レクリエーションの準備、片付けなど、何かちょっとしたことの中に役割や楽しみを見出していただけのようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の体調等に配慮しながら、散歩や外食、花見等の外出の機会を設けている。家族の方の協力も頂いている。	近くの神社に出かけたり、近隣を散歩するのが日課になっており、途中で飲み物を買求めたりしている。神社のお祭りや近くの会社の催しに出かけている。外食や墓参りは、家族の協力を得て支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談し、利用者様の希望を優先している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話はいつでも自由に使えるようにしている。手紙等の購入や代筆、投函などのお手伝いもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが集まるホールは、天井も高く日当たりや風通しもよく、開放感のあるつくりとなっている。毎日の掃除と鯉のぼりや七夕飾り等、季節ごとのしつらえにより、居心地よい環境となるよう工夫している。	ホールの天窓から明かりが注ぎ、開放的な雰囲気である。風通しや日当たりには気をつけて、季節や天気に応じて扉の開閉に気配りしている。ホールに畳のベンチやソファが置かれ、ゆっくりくつろげる空間も設けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のホールには、テーブルとイス以外にも畳コーナーやベンチを設置し、思い思いにそのときの気分や気の合う仲間と利用することができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族の写真、なじみのタンスなど、自由に持ち込んでいただき、安心して過ごせるしつらえとなるようにしている。	居室は全て南側で、風通しも良く明るい。家族の協力を得て、それぞれテレビ、使い慣れた家具、家族の写真などが飾られており、居心地良い居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下には手すりを設置し、ゆっくりでも自身の持てる力を使って移動できるよう支援している。トイレについては場所が分かりやすいように大きく表示している。		